

日本における看護麻醉教育の変遷と政策的課題

— Nurse Anesthetists 普及に向けた教育・制度基盤の再構築を佐賀から発信する —

西九州大学看護学部
2423研究室
教授 滝 麻衣

Part 1 : 麻醉に係る看護師への教育の変遷

- 1893年：米国で看護師が麻醉提供を担う。歴史的には、麻醉提供に看護師が深く関与してきた
- 2000年代～：現場主導の院内教育・OJT
- 2010年代～：大学院・特定行為研修等の萌芽的展開
- 2020年～：教育・修了要件・位置づけが**制度的に未整理**

※ 医師不足・周術期医療の増加により、医療提供体制としての役割期待は年々拡大

Part 2 : 現状のギャップ

日本におけるAdvanced Practice Nurseの養成は遅れてる

- 教育の標準化・質保証が不十分：教育課程修了≠資格認定
- 修了後の役割・責任範囲が不明確：資格を示す名称の乱立
- 制度・法的位置づけがなく社会的認知が限定的で、修了者の身分保障が不明確
- 大学教育と臨床二ーズの乖離：臨床実践能力はOJT教育？



Part 3 : 政策的課題と提案

持続可能な医療提供体制の実現には

Nurse Anesthetistsの**体系的育成**と**制度的位置づけ**が鍵である

- 大学院レベルでの体系的教育の整備
- 臨床能力に基づく教育要件・修了基準の明確化
- 医療政策における正式な位置づけ
- 医師偏在・医療安全対策としての国家的戦略

…など教育・制度・財政の一体設計が必須である

